

群馬大学医学部附属病院

群大病院だより

GUNDAI NEWSLETTER

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町三丁目39-15 / TEL 027-220-7111(代) / ホームページ <https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>

6年間の病院長時代

病院長 田村 遵一

平成27年4月に病院長を拝命し、業務に精励してまいりましたが、本年の3月末をもって任期満了となります。6年間にわたり群馬大学医学部附属病院(以下、群大病院)を応援してくださいました患者さん、ボランティアの皆さん、地域の方々を始め、すべての関係者に心から感謝申し上げます。思えば、医療事故に始まり、新型コロナウイルス感染症で終わる6年間であり、振り返りますと、任期の更新と一致して、約2年ごとに様相が変わりました。

第1期:事故対応期

平成26年に医療事故が判明した翌年、病院の改善と信頼回復を至上命令として4月から病院長に就任しました。当初は連日東京に出張して厚生労働省や文部科学省にて経緯説明を行い、また、外部委員からなる事故調査委員会に対し、医療事故を客観的に分析する対応をお願いするなど、非常に多忙な毎日でした。事故調査報告書および病院の体制や職員の意識改革の提言をいただいてからは、報告書や提言を真摯に受け止め、病院の改革に取り組み、再発防止と信頼回復に努めてまいりました。

第2期:安全文化醸成期

群大病院の医療安全体制の強化と職員の意識改革、および社会への事故対応状況の説明が活動の中心となりました。取り消しとなった「特定機能病院」への復帰は、信頼の回復とともに病院経営にも直結し、皆様のご期待に応えられる群大病院として不可欠の悲願でした。この時期はたくさんの課題をこなす必要があり

ましたが、主に前向きな内容であり、やりがいがありました。



第3期: 復活と新たな強敵、新型コロナウイルス感染症

皆様からのご支援もあって、平成31年4月に特定機能病院に復帰できました。初心を忘れず安全文化の醸成をさらに進めるべく、病院機能評価で最も厳しい「一般病院3」の基準もクリアし、再出発!と張り切っていたところに、新型コロナウイルス感染症という、思ってもみなかった強敵が現れました。日々刻々と変化するこの強敵に対しては、スタッフ一同心を合わせて社会からの要望にお応えしています。

いろいろなことがあった6年間でしたが、多くの皆さまに応援していただき、どうにか任期終了となりました。本当にありがとうございました。

4月から新しい病院長のもとでこれまで以上に地域に信頼される群大病院を目指してほしいと思います。

も く じ



- 6年間の病院長時代 1 ページ
- 集中治療部の役割について 2 ページ
- 患者支援センターからのお知らせ 3 ページ
- 第11回群馬大学医学部附属病院地域医療連携施設交流会の中止
FAXによる初診予約
ソーシャルワーカーのお仕事
テレビ電話を利用した退院前カンファレンスを行っています
- 新任のあいさつ 4 ページ
- 大規模災害を想定した多数傷病者受入訓練を実施しました 4 ページ
- 病院探検!「臨床試験部」 4 ページ

集中治療部の役割について

集中治療部長 齋藤 繁

手術や外傷、重症感染症といった、生体への大きなストレスから患者さんの体を守るのが集中治療部（ICU）の役割です。実際のところ、入室患者の6割くらいが手術後の患者さんです。それ以外には、約2割が院外からの救急患者さん、残りの2割が院内の病棟で具合が悪くなった患者さんです。一般病棟などで患者さんが予期せぬ急変となった場合には、緊急医療チームとして当ICUのスタッフが直ちに現場へ向かうシステムも取り入れています。

重症患者さんを治療するためには、多職種が連携する必要があります。医師や看護師以外にも、専任の薬剤師、臨床工学技士、理学療法士、栄養士が働いています。当ICUには開放ベッドが9床、個室ベッドが8床の計17床あり、比較的大きなICUです。大学病院のICUなので、患者の診療だけでなく、スタッフの教育や研究を行うのも大事な役目です。

集中治療で用いる人工臓器のうち、ECMO（体外式膜型人工肺）が昨今話題になっています。ECMOには、大きく分けて2つの方法があります。ひとつは、心臓と肺を補助する場合で、V-A ECMOと呼ばれます。一方、肺のみを補助するものはV-V ECMOと呼ばれます。いずれの場合も、患者さん自身の心臓や肺の機能が戻るまでの一時的な補助に過ぎません。ECMOが心臓や肺の機能を戻すわけ



ECMOを装着した患者さんの看護の様子



理学療法士によるリハビリの様子



多職種が参加するカンファレンスを毎日行っています

ではないので、回復するまでの時間を稼ぐことが狙いです。治療中には血を固まりにくい状態にする必要があります。重篤な出血を引き起こすこともあります。ECMOを装着するかどうかは、治療の効果と合併症のリスクを天秤にかけて判断しています。ECMOを安全に使用するには、経験を積んだスタッフがチームを組んで管理する必要があります。通常のスタッフ数の倍以上が必要になることもあります。

群馬県内唯一の大学病院ICUとして、重症患者さんと、そのご家族に満足頂けるような、高度な医療を提供するのが我々の役目です。1人でも多くの患者さんが元気になり、日常生活に戻れるよう、スタッフ一同努力していきたいと考えています。

患者支援センターからのお知らせ

第11回群馬大学医学部附属病院地域医療連携施設交流会の中止

当院では、地域に根ざした病院として、地域の医療機関との連携をさらに深めるため、例年、地域医療連携施設交流会を開催していましたが、今年度については新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑み、開催を中止とさせていただきます。関係機関各位に資料を送付させていただきました。

今後とも連携業務の推進に努めていく所存ですので、より一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

FAXによる初診予約

令和2年12月14日から、消化管外科（下部消化管外科）の初診予約枠を増やし、より活用していただけるようになりました。

診療科	現 行	変更後
消化管外科（下部消化管外科）	木	月・火・木・金

詳しくは患者支援センターのホームページをご覧くださいませようよろしく願いいたします。
<https://kanjasien.dept.showa.gunma-u.ac.jp/>

ソーシャルワーカーのお仕事

「あのう、ちょっと聞きたいんですけど…」
 こんな一言から患者支援センターでは患者さんやご家族の話を伺うことがあります。

今まで元気に過ごしていた方が急な病気や怪我などで身体や心の治療が必要になると他にも不安や心配なことが出てきます。そんな時、社会福祉の立場からソーシャルワーカーは患者さんたちからお話を伺い一緒に考え解決の糸口を探していきます。

今では業務に占める退院調整の割合が増えて地域の医療機関にご相談させていただくことも多くありますがそれ以外にもソーシャルワーカーは幅広い相談対応をして日々奮闘しております。



テレビ電話を利用した退院前カンファレンスを行っています

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、患者さんが入院中に担当の在宅医療支援者さんと直接会うことも難しい状況となっています。



自宅での療養を支援していただく在宅療養支援者の皆様と患者さんが、退院前に顔を見てお話できるよう、当院ではテレビ電話を使用している退院前カンファレンスを行っています。

ケアマネージャー、訪問看護師、在宅医の皆様にもテレビ電話を利用した情報共有をお願いすることがありますが、ぜひよろしくお願い致します。





新 任 の あ い さ つ



皮膚科 教授 茂木 精一郎



みなさん、こんにちは。2020年10月から皮膚科の教授となりました茂木と申します。皮膚の病気は、患者さん本人だけではなく、周りの人からも見えるため、日常生活に支障を生じることが多く、精神的苦痛を伴うために、著しいQOLの低下につながります。私たちは、一人でも多くの患者さんの皮膚疾患を治療し、精神的な支えになりたいと考えております。医療安全に十分に注意しながら、患者さんに最新・最適な治療を提供できるよう診療科一丸となって頑張ります。どうぞ宜しくお願いいたします。

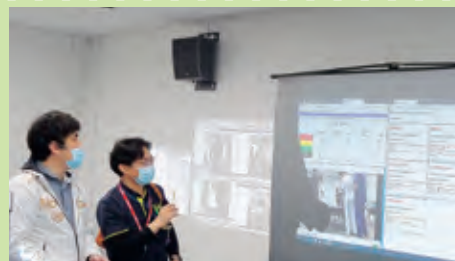
大規模災害を想定した多数傷病者受入訓練を実施しました

令和2年12月6日（日）に多数傷病者受入訓練を実施しました。

今回の訓練は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、訓練参加者をDMAT、GLAST、災害看護リンクナース及びシステム統合センターに限定し、50名程度で災害対策本部及び各エリア間の情報共有の在り方にスポットを当て、机上訓練を行いました。今回の訓練で得られた課題等を活かし、群馬県の災害拠点病院として、いざという時により安全かつ迅速に動けるよう準備しています。



赤エリアの活動風景



災害対策本部で各エリアや受入状況をモニターで確認

病院探検！「臨床試験部」

標準治療が効かない 患者さんの支えに

臨床研究とは、「人」を対象とする医学系の研究全般のことで、そのうち新薬の有効性や安全性を調べて国の承認を得るために行われるものを治験と呼びます。臨床試験部は、院内で実施される治験・臨床研究を支援する部署で、全体のまとめ役である医師の部長、臨床研究コーディネーター（CRC）、データマネージャー等のスタッフ約30名で構成されています。群大病院では、新薬開発に力を入れ常時80～100件の治験を実施し、これまでに約300もの新薬が承認されています。標準治療が効かない患者さんの支えになるよう、質の高い治験・臨床研究の実施をサポートしています。



毎月、治験の実施状況等を会議で確認します

病院の理念

大学病院としての使命を全うし、国民の健康と生活を守る。

基本方針

安全・納得・信頼の医療を提供する。
次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。
明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。
医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。

群馬大学医学部附属病院「群大病院だより」

第10号 2021年3月

編集 ■ 群大病院だより編集委員会

発行 ■ 群馬大学医学部附属病院

発行日 ■ 2021年3月10日

ホームページ ■ <https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>